

ネター整域の素イデアル鎖について

香川大教育 藤田和憲

最近、小野田司氏により *catenary* でない *noetherian normal domain* の例が構成された (この考究録の「擬幾何学的環の *formal fibre* による素イデアル鎖条件の判定」). 従って Ratliff が提出した *chain conjecture*: 「*noetherian local domain* の *integral closure* は *chain condition* を満たす」は否定的に解かれたことになった.

ここでは Ratliff の著書 *Chain conjecture in ring theory* (Lecture Note 647 Springer) を参考にして、素イデアル鎖問題の経緯および Nagata, Ratliff 等の得た結果のいくつかについて要約する. 以下 *ring* はすべて *noetherian ring* あるいは *noetherian domain* の *almost finite integral extension* とする. 素イデアル鎖について詳しくは、方も平易に読めるように定義から始める.

定義 環  $R$  の素イデアル鎖  $\mathfrak{P}_0 \subset \mathfrak{P}_1 \subset \dots \subset \mathfrak{P}_n$  が saturated

$$\Leftrightarrow \forall i \leq n \quad \text{ht } \mathfrak{P}_i / \mathfrak{P}_{i-1} = 1$$

$\mathfrak{P}_0 \subset \mathfrak{P}_1 \subset \dots \subset \mathfrak{P}_n$  が saturated であり、 $\mathfrak{P}_0$  が maximal ideal,  $\mathfrak{P}_n$  が minimal prime ideal のとき、 $\mathfrak{P}_0 \subset \mathfrak{P}_1 \subset \dots \subset \mathfrak{P}_n$  を maximal chain という。

定義 環  $R$  が catenary

$$\Leftrightarrow R \text{ の prime ideals } \mathfrak{P}, \mathfrak{P}' \text{ (} \mathfrak{P} \supset \mathfrak{P}' \text{)} \\ \text{について } \mathfrak{P} \text{ と } \mathfrak{P}' \text{ の間の saturated} \\ \text{chain の長さは一定}$$

すぐわかるように  $R$  が domain のときは 次の条件 (i) あることは (ii) と同値になる。

- (i)  $\forall \mathfrak{P}, \mathfrak{P}' \in \text{Spec}(R)$  s.t.  $\mathfrak{P} \supset \mathfrak{P}'$  について  $\text{ht } \mathfrak{P} = \text{ht } \mathfrak{P}' + \text{ht } \mathfrak{P}'_{\mathfrak{P}}$
- (ii)  $\text{ht } \mathfrak{P} = 1$  なる  $R$  の任意の prime ideals  $\mathfrak{P}, \mathfrak{P}'$  について、 $\text{ht } \mathfrak{P} = \text{ht } \mathfrak{P}' + 1$

よく知られているように、体  $k$  上の affine ring  $k[x_1, \dots, x_n]$  とか、regular local ring は catenary である。

また、catenary ring の homomorphic image は catenary である。従って I.S. Cohen の Structure theorem of complete local rings (\*\*)、complete local

ring は catenary [ある = とがわかる。 これらのことから自然に次の問が生じる。

noetherian ring は catenary か?

これは長い間解けなかつた問題であった。 [1]にも同様の問が示されている。 上の問は 1956年に Nagata によって否定的に解かれた。 catenary ではない noetherian domain の例が示された [4]。 今度、小駒氏の例が出るまでに、catenary ではない noetherian ring の例は、本質的に Nagata の構成したものだだけであった。 Nagata は次に示すような domain  $R'$  および、その subring  $R$  を作った:

$(R', \mathfrak{m}_1, \mathfrak{m}_2)$  は 体  $K$  を含む semi local domain で 次の (i) ~ (iii) を満たす。 (i)  $ht \mathfrak{m}_1 = m+1$ ,  $ht \mathfrak{m}_2 = r+m+1$  に  $r > 0$ ,  $m \geq 0$  (ii)  $R'_{\mathfrak{m}_1}$ ,  $R'_{\mathfrak{m}_2}$  は regular local rings. (iii)  $R'_{\mathfrak{m}_1} = K$ ,  $R'_{\mathfrak{m}_2} = K$ .  $\mathfrak{m} = \mathfrak{m}_1 \cap \mathfrak{m}_2$ ,  $R = K + \mathfrak{m}$  とおく。 このとき  $(R, \mathfrak{m})$  は noetherian local domain で 次のいくつかの変った性質をもつ (a)  $R'$  は  $R$  の integral closure 従って  $(R, \mathfrak{m})$  の integral closure は 高さの異なる maximal ideals をもつ。 (b)  $R'$  の maximal ideal  $\mathfrak{m}_1$  の高さは  $m+1$  であるが、 $\mathfrak{m}_1$  を  $R$  に落した maximal ideal  $\mathfrak{m}$  の高さは、 $m+r+1$ 。 よって、 $ht \mathfrak{m}_1 < ht \mathfrak{m}_1 \cap R$ . (c)  $m > 0$  のとき、 $R$  に

は、 $\{0\}$ と $m$ の間に長さ $m+1$ および $r+m+1$ の saturated chain がある。従って  $R$  は catenary ではない。(d)  $m=0$ のとき  $R$  は catenary であるが、 $R$ 上一変数多項式環  $R[X]$  は catenary ではない。

この例の  $m>0$ のときの  $R$ の integral closure と  $m=0$ のときの  $R[X]$ の integral closure は局所的に regular local ring であるから catenary である。このことが主な理由で次の向が生じる

noetherian normal domain は catenary か?

noetherian domain の integral closure は catenary か?

Reidiff はこれを解くべくかなり努力した。彼の Lecture note の p.20 にあるように、彼は上の向は成立すると考えていたと思える。小駒氏はこの向に対する反例を与えた。

次にいくつかの素イデアル鎖の条件のうちから主に second chain condition について書く。まず定義から:

~~定義~~ ring  $R$  が first chain condition for prime ideals をみたす。(略して f.c.c. とみたす)

$\Leftrightarrow$ 

$R$  の任意の maximal な素イデアル鎖の  
長さは  $\dim R$  に等しい

定義 ring  $R$  が second chain condition for  
prime ideals (略して s.c.c.) をみたす.

 $\Leftrightarrow$ 

$R$  の任意の minimal prime ideal  $\mathfrak{P}$  に  
対して  $R$  の任意の integral extension  
は f.c.c. をみたす.

定義 domain  $R$  が altitude formula をみたす

 $\Leftrightarrow$ 

$R$  を含む任意の finitely generated domain  
 $A$  について  $\forall \mathfrak{P} \in \text{Spec}(A)$

$$\text{ht } \mathfrak{P} + \text{tr. deg}_{R/\mathfrak{P}} A/\mathfrak{P} = \text{ht } \mathfrak{P} + \text{tr. deg}_R A$$

定義 ring  $R$  が universally catenary

 $\Leftrightarrow$ 

$R$  上任意の finitely generated algebra  
は catenary

前の Nagata の例で  $m=0$  の  $R$  は first chain condition  
をみたすが、second chain condition はみたさない。

またその  $R$  は *universally catenary* でもない.

定理  $(R, \mathfrak{m})$  を *local domain* とすると 次は 同値である.

- (1)  $R$  は *quasi unmixed* i.e.  $R$  の completion  $\hat{R}$  は *f.c.c.* を満たす.
- (2)  $R$  は *altitude formula* を満たす
- (3)  $R$  は *s.c.c.* を満たす.
- (4)  $R$  は *universally catenary*
- (5)  $R[X]$  は *catenary*
- (6)  $R$  の *integral closure* は *s.c.c.* を満たす.
- (7)  $R$  の *henselization* は *s.c.c.* を満たす
- (8)  $R$  の *henselization* は *f.c.c.* を満たす

注意 *henselian local ring* については *f.c.c.* を満たす  
 $\Leftrightarrow$  *s.c.c.* を満たす.

(1)  $\Rightarrow$  (3) は [4] で示された. (1)  $\Rightarrow$  (2) は [5] に原形があり [6] で完全にはった. Ratliff の論文 [7] の一つの特徴は、(2)  $\Rightarrow$  (1) と (3)  $\Rightarrow$  (1) を証明した点である.

[7] のもう一つの特徴は (1)  $\Leftrightarrow$  (5) を示した点である.

Ratliff の *lecture note* には、これらも含めて 32 個の同値

な命題が示されている。そのうちから多少表現において異っているものを2つ書き加える。

(9)  $(m, \mathfrak{y})R[\mathfrak{y}] \subsetneq R[\mathfrak{y}]$  をみたす  $R$  の商体の任意の元  $\mathfrak{y}$  に対して、 $R[\mathfrak{y}]_{(m, \mathfrak{y})}$  は catenary でありかつ、 $\dim R[\mathfrak{y}]_{(m, \mathfrak{y})} = \dim R$

(10)  $e(\mathcal{O}_L) = e(\mathcal{O})$  なる任意の  $m$ -primary ideal  $\mathcal{L}$  の  $\mathcal{O}_L$  に対して、 $\mathcal{L}\mathcal{O}_L^n = \mathcal{O}_L^{n+1} \quad \forall n \gg 0$  により  $e$  は multiplicity を表わす。

最後に Ratliff の lecture note 中にある素イデアル鎖に関する予想のうち 主なものを書く。まず定義から：

定義 ring  $R$  が chain condition (略して c.c.) をみたす  $\Leftrightarrow \forall \mathfrak{p}, \mathfrak{p}' \in \text{Spec}(R), (\mathfrak{p} \supset \mathfrak{p}')$   
 $(R/\mathfrak{p}')_{\mathfrak{p}}$  は s.c.c. をみたす

定義 domain  $R$  が H-domain

$\Leftrightarrow R$  の任意の高さ 1 の prime ideal  $\mathfrak{p}$  について  $\dim R_{\mathfrak{p}} = \dim R - 1$

- (a) Chain conjecture: local domain の integral closure は、c.c. をみたす。
- (b) Depth conjecture:  $R$  を任意の local domain、 $\mathfrak{p} \in \text{ht } \mathfrak{p} > 1$  なる  $R$  の任意の prime ideal とするとき、 $\mathfrak{p} \supset \mathfrak{p}'$ ,  $\dim R/\mathfrak{p}' = \dim R/\mathfrak{p} + 1$  をみたす  $R$  の prime ideal  $\mathfrak{p}'$  が存在する。
- (c) H-conjecture: H-local domain は catenary.
- (d) Catenary chain conjecture: catenary local domain の integral closure は c.c. をみたす。
- (e) Normal chain conjecture: integral closure が f.c.c. をみたす local domain は、s.c.c. をみたす。

これらの予想の間の関係は、 $(a) \Rightarrow (b) \Rightarrow (c) \Rightarrow (d) \Rightarrow (e)$  である。

(a) は、小駒氏の例により成り立たないことがわかった。(b) ~ (d) は今のところ解決していない。(b) ~ (d) はどれも興味深く面白い問題であるが、(a) が崩れたときのくらい意味があるか疑問である。

(c) に関連して、Ratliff は [R] で次のことを示している。

命題 local domain  $(R, \mathfrak{m})$  について

$$R \text{ が catenary} \iff \forall \mathfrak{p} \in \text{Spec}(R) \quad \text{ht } \mathfrak{p} + \dim R/\mathfrak{p} = \dim R$$



また [2] には、任意の prime ideal 子について、 $\text{ht } \mathfrak{P} + \dim R_{\mathfrak{P}} = \dim R$  が成立するが catenary (ない noetherian) Hilbert domain が構成されている。semi local domains については次の予想がある

Taut-level conjecture:  $R$  を  $\text{ht } \mathfrak{P} + \dim R_{\mathfrak{P}} = \dim R$   $\forall \mathfrak{P} \in \text{Spec}(R)$  を満たす semi local domain とすると、 $R$  は f.c.c. を満たす。

これについては、Taut-level conjecture  $\Rightarrow$  Catenary conjecture である。上の予想について、[3] に部分的な解がある。

命題  $R$  を  $\text{ht } \mathfrak{P} + \dim R_{\mathfrak{P}} = \dim R$   $\forall \mathfrak{P} \in \text{Spec}(R)$  を満たす semi local domain とすると、 $R$  の maximal (ない任意の prime ideal 子) について、 $R_{\mathfrak{P}}$  は a.c.c. を満たす。

### 参考文献

- [1] I. S. Cohen, Length of prime ideal chains, Amer. J. Math. 76 (1954), 654-668.  
 [2] K. Fujita, Some counterexamples related to prime chains in integral domains, Hiroshima Math.

- J. 5 (1975), 473-485.
- [3] S. McAdam and L.J. Ratliff, Semi local taut rings, *Indiana Univ. Math. J.* 26 (1977), 73-79.
- [4] M. Nagata, On the chain problem of prime ideals, *Nagoya Math. J.* 10 (1956), 51-64
- [5] M. Nagata, Note on a chain condition for prime ideals, *Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto* 32 (1959-1960), 85-90.
- [6] L.J. Ratliff, On quasi-unmixed semi-local rings and the altitude formula, *Amer. J. Math.* 87 (1965), 278-284.
- [7] L.J. Ratliff, On quasi-unmixed local domains, the altitude formula, and the chain condition for prime ideals (I), *Amer. J. Math.* 91 (1969), 508-528.
- [8] L.J. Ratliff, Catenary rings and the altitude formula, *Amer. J. Math.* 94 (1972), 452-466.